

# 2017年度活動報告

## はじめに

2017年度をもって引退馬協会は設立から8期を終了し、おかげさまで、2017年12月には前身のイグレット軽種馬フォスターペアレントの会から数えて設立20周年を迎えました。20年前には引退馬について公の場で語ることもタブーだったことを考えると、ここ数年の引退馬を取り巻く環境は、劇的な変化を遂げています。当時は考えられなかったことですが、これまでの地道な活動が認められ、沼田代表理事も、JRAが中心となって立ち上げた引退馬に関する複数の委員会のメンバーとして、引退した競走馬や乗馬の余生支援のために声を届けています。

20年に渡って活動を続けてこられたことは、私たちにとってかけがえのない財産です。支えてくださっている会員の皆さま、ご寄付やボランティアを通じてご支援いただいている皆さまに、心より御礼申し上げます。

各事業に関する詳細を以下に報告いたします。

## 1) 馬と人のふれあい事業

この事業は、フォスターホース(以下、FHと記載)たちの体験騎乗や、手入れ、ツアーなどでのふれあいを通じて馬の温もりに接し、馬という動物についてより知っていただき、親しんでいただくために行っています。

千葉のフォスターホースの預託先である乗馬倶楽部イグレットで「イグレット軽種馬フォスターペアレントの会」設立当初から重要なイベントとして行っている「FHと過ごす日」や、全国各地に預託しているFHたちとの自由訪問でのふれあいの他、安全指導を含む馬との接し方・乗り方の講習会の開催、及び、FHにゆかりのある牧場や引退競走馬たちを訪ねる見学ツアーや、養老牧場でのボランティアツアーを実施しています。

また、「再就職支援プログラム」では、引退競走馬の初期馴致を行い、適材適所への譲渡活動を行っています。

### ① 「FHと過ごす日」の開催及び騎乗指導と講習会

2017年度は年間で計6回開催、そのうち8月の開催では毎夏恒例の一品持ち寄りバーベキューとの同時開催とし、会員同志が親睦を深めました。

体験騎乗ではハリマブライトやコアレスピューマが活躍。リーディング(馬の引き方)体験やお手入れなどを通して、馬とのふれあいを楽しんでいただきました。また、進行補助や送迎、レポートなど、たくさんのボランティアさん達にご協力をいただきました。



「FHと過ごす日」でハリマブライトのお手入れをする参加者

② 乗り方指導・馬の接し方講習会(含む安全指導)

騎乗できるFHがハリマブライト一頭だけで、ハリマブライトはからだ小さく、乗馬経験者でないと乗りづらく、誰でも乗れる馬ではないため、「FHと過ごす日」でも、基本的には曳き馬のみでした。コアレスピューマは2017年10月の「FHと過ごす日」で初めて会員さんに引き馬で乗っていただき、少しずつですが、皆さんに乗っていただけるようになるための経験を積んでいます。

③ 専門家を招いての指導

2017年6月の「FHと過ごす日」にエクイエンズ株式会社の藤本美芽氏を講師に招き、馬について知っていただくためのミニセミナーを開催しました。馬にストレスを与えない接し方、馬をリラックスさせるためのマッサージの仕方などを学び、大変好評でした。2018年度にはさらに本格的なセミナーへと発展させ、馬との接し方を指導できる人材を育てていきたいと考えています。



藤本氏(右)を招いて

④ 「引退競走馬再就職支援プログラム」による安全に接することができる馬の調教

「再就職支援プログラム」の実施と卒業生見守り

再就職支援プログラムは、引退した競走馬に対し、人とおだやかに暮らすための馴致調教を行うプログラムです。人間に曳かれてゆっくり歩くことができる練習や、乗馬としての常歩・速歩・駆歩を指示通りにできる基礎的な運動などを通しておおよその馬の性格や能力を把握し、それぞれの馬に適した場所へ譲渡することを目指し、譲渡する馬と譲渡先との mismatch を防ぐために大変有効なプログラムと考え、継続して行っています。

	馬名	プログラム期間	調教施設	譲渡先(繋養先)
8期生	オキテ	2017/5～2017/7	静内坂本牧場(仮)	個人(静内坂本牧場)
12期生	メイクアダッシュ	直接入厩	キャロット・ステーブル	同左(去勢代を援助)
13期生	ウインスプラッシュ	2017/7/30～12/31	乗馬倶楽部イグレット	個人(千葉・乗馬倶楽部イグレット)
14期生	リン(バージンファン トム)	2018/3/1～継続中	乗馬倶楽部イグレット	未定

8期生のオキテは、譲渡先の育成牧場を一年で移動することになったため、2017年5月から7月まで生産者である静内坂本牧場に預け、7月からは個人(グループ)の預託馬となりました。12期生のメイクアダッシュは、調教施設から譲渡先へ直接入厩し、去勢手術代をプログラムで負担しました。

2011年から開始した「再就職支援プログラム」は、引き取り希望者とのきめ細かなマッチングや、卒業生の終生繋養、終生見守っていくことを大切に活動してきたことから、プログラムに馬を入れたい方が増



新オーナーさんと  
ウインスブラッシュ

えてきたため待機期間が長くなり、ウインスブラッシュとリン(バージンファントム)は、それぞれ数か月の待機期間を経ての入厩となりました。これらを鑑み、待機期間を短くして馬をプログラムへ繋いだ方の負担を軽減するため、再調教ができる乗馬クラブを視察し、2018年度からは、乗馬倶楽部イグレットと同時進行でプログラムを実施できる体制を整えました。

また、再就職プログラムに馬を入れる人には、この事業の主旨をご理解いただくために、一年以上の正会員登録があることを条件とし、馬がプログラムを卒業した後も、正会員として継続して、共にその馬を見守り続けていただくことを新たに決めました。詳しくはホームページに記載しています。

(<https://rha.or.jp/fureai/followup.html>)

### ⑤ 馬の養老施設視察・作業ボランティアツアーの実施

2017年4月20日から22日にかけての二泊三日で、会員11名、事務局スタッフ1名の計12名で、鹿児島県のNPO法人ホーストラストにて、毎年恒例のボランティア&見学ツアーを開催しました。当初作業ツ



コッチャンを囲んで

アールと見学ツアーを分けて行う予定でしたが、人員調整がつかず、従来の作業ボランティアと見学を合わせたツアーとなりました。(見学ツアーの実施時期については未定となっています。)

一日だけの参加をされる方や、途中で乗馬を楽しんだり、それぞれの体力や都合に合わせて参加される方もいらっしゃいました。被災馬FHのハーモニチトセチャンやコッ

チャンとのふれあいや、エナコのお墓参り、繋養されている馬たちの朝

夕の飼い付けやお手入れ、放牧地の石拾いやゴミ拾いなどの作業を手伝いました。ホーストラストの小西専務理事とのミーティングでは、ホーストラストの今後の展望を伺ったり、親睦を深めたホーストラストのスタッフのみなさんと高齢馬の傷病管理についての情報交換を行ったり、作業のお手伝いを通じて、ホーストラストの活動について理解を深めることができました。



餌づくりのお手伝い

### ⑥ 引退馬による「馬のいる風景」を守る取り組み

JRA が取り組みを始めている引退馬のセカンドキャリア支援に伴い、引退馬協会では、乗馬となった多くの馬たちの「その後」の受け入れ先を作ることが最重要課題であると考え、馬と関わりの深い土地である、千葉県、山梨県、福島県、岩手県に「馬のいる風景」づくりを進めるため、現地を視察訪問し、自治体や地元団体、法人と積極的な話し合いを進めています。

## ⑦ 北海道ミニツアー

日高本線が不通となり、見学が困難な方が増えたことから、これまで隔年で開催してきた北海道ツアーに加え、北海道ツアー開催のない年に、FHとサポートホース(以下、SH)の預託先を回るミニツアーを開催することになりました。第1回目となった2017年度は、9月2日～3日の一泊二日で、会員20名、スタッフ3名(うち1名は部分参加)で、本桐牧場、丸村村下ファーム(お墓詣り)、渡辺牧場、荒木牧場、静内坂本牧場を巡りました。



オリオンを囲んで

9月2日の夜には、4月に亡くなったエイシンバーリンと、6月に亡くなったウラカワミュキを「偲ぶ会」を、それぞれの牧場の方をお招きして執り行いました。

## ⑧ 馬に対する知識を深めるセミナーの実施

2017年10月7日から8日にかけての一泊二日で、埼玉県越生町の「Village My Esse」にて、「Village My Esse」代表取締役の小森恵子氏を講師に迎え、7名のご参加により、「第一回ハッピーライフセミナー」を開催しました。



馬房掃除体験

このセミナーは、馬についての知識を深め、馬を引き取るにあたって、「人も馬もハッピー」になれるよう、馬を飼養する際に「アニマルウェル



引き馬の練習

フェア」の視点に立った飼養をするために必要なことを学び、馬を引き取ったり、自分で飼養するときの基準とすることを目的としています。

セミナーは、馬の習性や病気についての座学、馬装やお手入れ方法、飼料やサプリメントの説明、調馬索や引き馬、乗馬指導と盛り沢山の内容で、参加された方たちは実際に馬を引き取って預託している人や、これから引き取りを考えている人など様々でしたが、また開催して欲しいという声が多く聞かれ、大変好評をいただきました。

## 2) 啓発事業

年4回(季刊)発行している会報「RHA 通信」の他に、会の知名度を広め、引退馬についての関心を高めるため、インターネットでの情報発信や、写真展の開催など、さまざまな形での啓発活動を行っています。

### ① 引退馬に関する情報発信・各種広報活動

2017年度も公式ホームページやFHたちの近況報告ブログを主に、facebookやtwitterを通じて、情報発信を行い、会員以外の方への啓発に加え、新規の入会や寄付へと繋げることができました。2018年からは近年利用者が急増しているInstagramを活用し、引退馬協会だけでなく、引退馬ネットのサポート団体につ

いても積極的に情報発信をしていきます。

## ② 会報(RHA 通信)・活動報告書の発行と送付(印刷版・PDF 版)

正会員(一般会員・FP会員)、後援会員と、賛同会員のうち会報購読を希望された方に、7 月、10 月、1 月、5 月の年 4 回、「RHA 通信」を郵送、WEB 閲覧を希望した方へはメールで配信しました。

また、2016 年度の活動報告を、会員及びご住所のわかる寄付者全員にお届けし、会費や寄付がどのような活動に使われているかをお知らせしました。

## ③ 啓発活動としての写真展等開催



展示と物販



### 引退馬協会 20 周年記念タイキシヤトル賞

2018 年 1 月 18 日～22 日には、横浜・赤レンガ倉庫で開催された「ホースメッセ 2017」に、昨年が続いてパンフレットを置かせていただきました。「ホースメッセ」がイベントとして認知され、多くの方が訪れて定着してきていることから、2018 年度はブースを設け、トークイベント等を行い、当会の活動について広くアピールしたいと考えています。

## ④ ホースコミュニティ主催「引退馬フォーラム」参加

一般財団法人ホースコミュニティ様主催で Gate.J 新橋で開催された「引退馬フォーラム」の第一回(2017 年 7 月 26 日～8 月 7 日)と、第二回(9 月 6 日～9 月 18 日)で、引退馬協会の活動紹介パネルを



トークショーにて

展示し、翌年2月19日にはJRAの鈴木伸尋調教師、フリーアナウンサーの目黒貴子氏と荘司典子氏を招いて、沼田代表とトークイベントを行いました。

また、10月9日には、ホースコミュニティ様主催で開催された「サンクスホース・デイズ in 東京競馬場」に参加し、ブースで活動記録集や啓発グッズを販売したほか、競馬博物館で引退馬協会の活動についての講演を行いました。

啓発活動やイベントでは、たくさんの方がボランティアとして朝早くから夜遅くまでご協力くださいました。この場にて、あらためて御礼申し上げます。

#### ⑤ 引退馬協会活動記録集販売

2016年度に自費出版した、前身のイグレット軽種馬フォスターペアレントの会から始まった引退馬協会の20年の活動のあゆみを記した『馬の命を守れ！—引退馬協会活動記録』は、2017年度にはJRAへの卸分の在庫(2018年7月末現在、30冊)を残し、販売を終了いたしました。たくさんのお買い上げ、ありがとうございました。

#### ⑥ ホームページのリニューアル

引退馬協会について、また、引退馬協会が行っている引退馬の支援活動について、ホームページに掲載されている情報がわかりにくい、また入会や寄付の仕方がわからない、という声が以前より寄せられていたため、2016年度から2017年度にかけてリニューアル準備を進め、年度が変わった2018年6月29日に公開いたしました。(制作費は2018年度の事業費からの支出となります。)

リニューアル準備にあたり、専門知識をもった会員の方々に多大なるご協力をいただきましたことに、あらためまして、御礼申し上げます。

#### ⑦ ロゴマーク入りオリジナルグッズの制作販売

当初は予算が厳しかったことから、新しいグッズの制作を見合わせていましたが、引退馬フォーラムの参加や競馬場でのイベントで物販をする機会が増えたため、既存のトートバッグやクリアファイルを追加制作したほか、引退馬協会設立以来のすべてのフォスターホース(スキャンを含む)を納めた21枚組の20周年ポストカードセットを製作しました。

イベントでは「引退馬支援のために」とご購入くださる方が多く、グッズを使っていただくことがPRになることを考えて、今後も種類を



20周年記念ポストカードセット 1000円で販売中

#### ⑧ ナイスネイチャ・バースデー・ドネーション

2018年4月16日のナイスネイチャの誕生日から1ヶ月間、「バースデードネーション」のキャンペーンを

実施しました。「バースデードネーション」とは、お誕生日プレゼントをもらう代わりに応援する団体への寄付をお願いするファンドレイジングの手法のひとつで、近年の SNS の普及によって広まってきました。2016 年度に続き、ナイスネイチャが呼びかけ人となって寄付を募ったところ、たくさんの方からのご支援、Facebook や twitter、ブログでのシェアや、66 社に及ぶメディアに掲載いただいたおかげで、275 名の方から、目標の 500,000 円を上回る 677,000 円のご寄付が集まりました。また、単発のご支援だけでなく、継続してご寄付をいただいている方もいらっしゃいます。ご協力くださった皆さま、ご支援くださった皆さまに心より御礼申し上げます。このキャンペーンは今後も継続して行っていく予定です。

### ⑨ 動画制作

2018 年 2 月 25 日の「FH と過ごす日」に、ドキュメンタリー映画「今日もどこかで馬は生まれる」を制作する映画制作サークル「Creem Pan」様から引退馬協会の活動に関する取材を受け、ご厚意により、当日撮影した映像をもとに、無償で協会のプロモーションビデオを制作していただきました。このビデオはリニューアルしたホームページのトップページに掲載しています。

## 3) 引退馬ネット事業

引退馬ネット事業は、引退馬協会による対外支援活動です。引退馬の引き取りに関する単発的な相談のほか、サポートホース団体設立などの長期的なサポートを行っています。

### ① 馬の引取り相談・サポート

相談してくる方に、引き取り、預託先の紹介や繋養方法などについてアドバイスしています。2017 年度は、十分な準備がないまま見切り発車で馬を引き取ってしまうことへの警鐘として、啓発事業と連携して情報発信をしてきましたが、安易な引取り相談は減り、より現実的に準備をする方が増えてきていることを肌で感じられるようになりました。

### ② 引退馬繋養団体の引取り後の相談・運営サポート

サカモトホースファミリーには、2016 年 8 月に亡くなったタケノハーモニーの忘れ形見のコスモセブンが新しいサポートホースとして加わりました。一方、「アンバーさん」として長年親しまれてきたアンバーネックレスが、起立ができなくなり、2018 年 2 月 16 日に永眠しました。享年 33 歳でした。

渡辺牧場里親会には、脚が悪く、乗馬にはなれないケイウングリッターが新たに加わり、サポートホースが 4 頭になりました。

2016 年度から支援している「被災馬コテツの会」のコテツ(ルージュビクトリー)は、仮移動先の埼玉の牧場から福島県川内村のみどりのまきば黒澤牧場に移動しました。みどりのまきば黒澤牧場は、再就職支援プログラムの卒業生の愛(競走名プリンセスアイズ)を引き受けて下さった小さな牧場で、移動後はご寄付による支援を受けながら独立した会運営をしています。一時は健康不安を抱えていたコテツも今はすっかり

元気になりました。

日本で最初の養老牧場のオーシャンファームが閉鎖となり、行き先を失ったメリー、イブキダイハーン、ホクトヴィーナスの3頭を引き受けた浦野牧場の浦野正義氏が、「オーシャン愛馬の会」を立ち上げました。当初は支援者有志のみで3頭を養っていましたが、オーシャン愛馬の会の立ち上げまでのつなぎとして引退馬協会より2ヶ月分の預託料相当の18万円を助成しました。オーシャン愛馬の会独自にクラウドファンディングを実施したものの、会員数が少ないうちの補てんとして消えていくため、今後安定して会を持続していくためには、まだまだ多くの会員獲得が必要となります。



ミラキュラスは以前から引き取ることを希望されていた方2名が「ミラキュラスの会」を立ち上げ、円滑に会の運営ができるようにサポートすることになりました。

「エスケープハッチの会」は、佐々木代表が病気のために会の代表を継続することが困難となったため、以前からお世話になっている荒木牧場が運営する「荒木牧場功労馬サポーターズ」に会員組織ごと受け入れていただくことになりました。「エスケープハッチの会」の佐々木代表からは、代表を退くにあたり、ご自身の責任をまっとうすべく、生涯分に相当する負担額をお預かりしています。ある程度の年齢になって馬を引き取るリスクに備えてきた佐々木元代表に心より敬意を表します。

「荒木牧場功労馬サポーターズ」のネーハイシーザーも、2018年2月26日に起立ができなくなり、永眠しました。享年28歳でした。ネーハイシーザー亡き後、「荒木牧場功労馬サポーターズ」では、エスケープハッチと、2018年度からは、種牡馬を引退したオリオンザサンクスの2頭を支えています。

ツルマルツヨシは、「乗馬クラブで長年繋養されてきたツルマルツヨシに、青草のある放牧地で晩年を過ごさせたい」という中西代表の希望で預託先が移動となりました。どんな馬生を馬に送らせたいかを真剣に考えた結果の移動でした。

タカラハニーは競走生活を引退後、骨折や蟻洞という蹄の病気の療養のため、のんびり過ごしてきましたが、すっかり元気になり、まだ若いことから、乗馬として仕事をしながら馬生を過ごすことになりました。「ハニーズサークル」の発起人お二人が中心となり、真剣に考えてたどり着いた結論でした。タカラハニーは競技会デビューを果たし、頑張っています。

### 2017年度 新規サポートホースと異動

サポートホース	サポート対象	繋養先及び異動
コスモセブン(新)	サカモトホースファミリー	北海道新ひだか町・静内坂本牧場
アンバーネックレス	サカモトホースファミリー	2018年2月16日永眠
ケイウングリッター(新)	渡辺牧場里親会	北海道浦河町・渡辺牧場
コテツ(ルージュビクトリー)	被災馬コテツの会	福島県川内村・みどりのまきば黒澤牧場へ移動



メリー(新) イブキダイハーン(新) ホクトヴィーナス(新) (競走名イワノダンシング)	オーシャン愛馬の会	北海道白老町・浦野牧場
ミラキュラス	ミラキュラスの会(募集なし)	北海道新ひだか町(牧場名非公開)
エスケープハッチ	荒木牧場功労馬サポーターズ	北海道新ひだか町・荒木牧場
ネーハイシーザー	荒木牧場功労馬サポーターズ	2018年2月26日永眠
ツルマルツヨシ	ツルマルツヨシの会	宮崎県綾町・吉野牧場へ移動
タカラハニー	ハニーズサークル	滋賀東近江市・Vigorous Stable

### ③ 対外支援(2016年度支援分支払い)

2016年度からのときがわホースケアガーデンへの飼料支援は、昨年度中に終了しましたが、6月の飼料会社への支払いをもって完了しました。

※ときがわホースケアガーデンへの支援について、詳しくは「上記5事業から派生するその他事業」の「①被災馬支援活動」に記載しています。

## 4)フォスターペアレント(FP)事業

前身の「イグレットフォスターペアレントの会」から継続しているこの事業は、FHが終生、穏やかで幸せに元気に暮らせるように支援していただく里親＝フォスターペアレント(以下、FPと記載)制度によって、FHたちを安定していく繋養する、引退馬協会の基幹事業です。里親制度の運営、集いの場の提供、FHの預託など、FHに関わる事業はすべてFP事業となります。

### ① 会員制度(引退馬の繋養を支える里親制度の運営と集いの場の提供)

引退馬協会の会員イベントとして、2018年1月13日に東京・新橋で新年会を、2月3日に大阪・なんばで懇親会を、それぞれ開催し、美味しい料理とお酒をいただきながら、FHの動画やエイシンバーリン・ウラカワミュキのメモリアル映像の上映等を行い、馬談義に花が咲きました。今まで関西ではなかなかこうした交流イベントを開くことができなかったのですが、今後も継続的に実施していきたいと考えています。

FP会員のみなさんには、今年もFHのポートレートと、FHカレンダーをプレゼントしました。

### ② FHの預託

2017年6月2日にウラカワミュキが疝痛を発症し、安楽死となりました。享年36歳で、サラブレッドの牝馬としては日本長寿記録を樹立したと思われます。終生繋養をしている以上、いつかはやってくる馬たちとの別れは大変悲しいものではありませんが、一頭一頭を見送ることができるということは命に対する責任をまっとうできた証であると考えています。ご支援くださった皆さまには、あらためて御礼申し上げます。

今期は、メイショウドトウとタイキシヤトルを新たにFHとして受け入れました。

メイショウドトウは、ナイスネイチャと並び、より多くの方に引退馬協会を知っていただくための会の広報担

当となってくれることを期待して、当会のやまさき拓味理事を通じて、松本オーナーにお願いをし、譲渡していただきました。タイキシヤトルはメイショウドトウのご縁から、脚を痛めて種牡馬を引退した後の余生を引き受けて欲しいと(株)ジャパンレースホースエージェンシーから依頼があり、FHとして受け入れることになりました。



メイショウドトウ

2頭とも牡馬であることや、性格を良く知るスタッフがいることを考慮して、イーストスタッドに預託しています。預託先がスタリオンであることから種付シーズンは見学不可とさせていただき、会員の皆さまにはご理解をお願いする次第となりましたが、他のFHと変わらない預託料で種牡馬時代と同じように大切に管理していただいていることは、大変ありがたいことと考えています。



タイキシヤトル

千葉では、23歳になったハリマブライトが「FHと過ごす日」での会員さん達の騎乗やお手入れなどのふれあいで大活躍してくれました。14歳のコアレスピューマは、乗馬としてはまだ調教過程ではありますが「FHと過ごす日」では引き馬で騎乗していただいたり、リーディング体験(引いて歩く)を立派にこなしています。

北海道のナイスネイチャは、30歳と、FH最高齢となりました。セントミサイル(28歳)は右後ろ膝蓋骨の間接が狭くなっていることが原因で2頭から離れて放牧することがありましたが、仲間のところへ戻ったときには、相変わらずナイスネイチャにちょっかいを出す微笑ましい姿が見られました。しかし、2018年度になった6月21日、起立ができなくなり、永眠しました。マザートウショウ(28歳)は歯が悪いためにやわらかなものしか食べられませんが、元気に放牧地を走り回る姿が見られます。トウショウオリオン(25歳)は近くの放牧地の牝馬と柵越しに交流しながら元気に過ごしています。

群馬のキョウエイボーガン(29歳)も高齢となりましたが、乗馬クラブアリサで大切に管理され、元気に過ごしています。

FHの高齢化が進む中、何か異常があった場合には早めに診察を受け、適切な処置を取ってもらうようにし、QOL(生活の質)を維持していくことを重要と考え、必要なサプリメントなどは積極的に用いるようにしています。

### ③ FHに関わる情報発信と会員向け「FHレポート」の発行

FHに関わる情報発信として、FHレポートを、RHA通信を発行した7月、10月、1月、5月とを除く計5回(合併号2回あり)、FP会員に郵送及びPDF版で発行しました。この他、会のホームページ内の近況報告ブログとfacebook, twitterを連動させ、随時、各FHの近況報告を発信しました。

#### ④ FH カレンダー・卓上カレンダーの制作販売

「2018年FHカレンダー」は1000部制作し、FP会員に贈呈したほか、2017年10月から昨年と同じく一部800円(送料込900円)で販売し、完売しました。

また、メイショウドトウとタイキシャトルは、カレンダー制作に間にあわなかった為、2頭の卓上カレンダーを200部制作し、2018年2月から入会キャンペーンとして2頭の新規FPとして入会された方に贈呈した他、一部1000円で販売しています。

#### ⑤ FHを偲ぶ会・エイシンバーリン・ウラカワミュキ近況報告集とアルバム制作

馬と人のふれあい事業でも触れましたが、北海道ミツアールの際に、エイシンバーリンとウラカワミュキの「偲ぶ会」を執り行い、思い出を語り合い、スライドショーの上映を行いました。また、当該FHのFP会員みなさんには今までの馬たちの近況報告を1冊にまとめた近況報告集とミニアルバムを作成し、ご支援のお礼とさせていただきます。

#### ⑥ 被災馬 FH 繋養

東日本大震災で被災したコッチャン(トーセンクレイジー、11歳)、ハーモニイトセチャン(年齢不詳)を鹿児島に、おにくん(ナイキプラネット、12歳)を福島県南相馬市に被災馬FHとして預託しています。

被災馬FHの預託にかかる経費は、被災馬支援基金から支出していましたが、基金の残高が減少したため、2015年度からはフォスターペアレント事業として、被災馬FP会員からの会費を中心に支出しています。

コッチャンは放牧地の群れのボスとして頼もしい姿を見せてくれており、ハーモニイトセチャンは“夫婦”と言われるほどビッググラスと仲睦まじく、それぞれ元気に毎日を過ごしています。おにくんは外国産乗馬と間違われるほどの大きな体に、優しい性格で、クラブを訪れる子供たちの人気を集めています。



おにくん

### 5) 協賛及び後援事業

2017年度は、実施しませんでした。

### 上記5事業から派生するその他事業

#### ① 被災馬支援活動

2016年から引き続き、東日本大震災の被災馬コテツ(ルージュビクトリー)の支援を行いました。

「被災馬コテツの会」の木村代表が病気療養のため、退院後も復帰の目途が立たず、緊急措置として近隣の牧場へ仮移動し、移動先への預託料や去勢手術のための獣医療費及び馬運代は、コテツ会の会員数

が少なく会費収入で全額を負担することができなかつたため、被災馬支援基金から不足分を支出しました。その後、コテツは、引退馬協会の直接管理のもと、「被災馬コテツの会」の会費収入で預託料を支払える牧場として、福島県川内村の小さな養老牧場、みどりのまきば黒澤牧場に移動したのもって、被災馬支援基金からの助成を終了しました。

みどりのまきば黒澤牧場では、再就職支援プログラムの卒業生のプリンセスアイズ(現在の名前は「愛」)を引き取っていただいたのが縁で、コテツの預託を快諾してくださいました。「被災馬コテツの会」は現在、会費収入とご寄付による支援により、引退馬ネットの直接の管理下で運営をサポートしています。

## ② 「次の馬生」支援活動

### (1) ハッピーライフカバー配布

引退後に引き取りたいと思っている馬を行方不明にしないため、気にかけている馬の健康手帳につけるカバーです。2017年度も、わずかではありましたが、希望された方に配布しました。

### (2) 「次の馬生支援基金(スキャン基金)」からの支出はありませんでした。

基金の残高は、昨年と変わらず、1,451,076円です。

### (3) 騎馬隊退役馬支援

騎馬隊退役時に蹄に問題を抱えていた翔馬を、その後の状況確認のため、2月4日、譲渡先の愛知県常滑市の乗馬クラブクリスに訪問しました。譲渡から1年、装蹄師さんとの連携により、忍耐強く管理していただいたおかげで、蹄も回復し、現在は乗馬としての仕事もできるようになってきています。

## ③ 引退馬連絡会

JRAの引退馬支援に関するヒアリング等、必要に応じて参加各団体と連絡を取り合ったり、高齢馬の獣医療に関する情報交換を行いました。

## ④ 根岸競馬場跡保存活動と協働による啓発活動

2016年度に続き、2017年9月2日に、横浜市根岸の競馬博物館イベントホールにて、「NPO法人歴史的建造物とまちづくりの会」との連携により、「おはなしと音楽でたどる日本近代競馬黎明期」のタイトルでコンサートとシンポジウムを開催しました。

演奏家(ハープ・八木健一氏、鍵盤楽器・八木ゆみこ氏、バイオリン・土井真美氏)の奏でる当時の競馬場で演奏された曲を聴きながら、馬事文化財団学芸員の日高嘉継氏と、当会理事で、当時を描いた「竜蹄の門」の作者のやまさき拓味氏にお話をいただき、大変ご好評をいただきました。

今後も、近代競馬発祥の地、根岸競馬場を多くの方々に知っていただくために、活動を続けていきます。

## その他の事業(営利事業)

法人税の負担に見合った収益が見込めないとして、2017年度も営利事業は実施しませんでした。

※引退馬協会は千葉(本部)と北海道(北海道事務所)の二つの都道府県に事業所があるため、千葉県と香取市、北海道と長沼町の4か所で法人税(均等割り)の支払いが発生します。

## 2018年度に向けて

2017年度にはJRAを中心とした引退馬支援に関する取り組みが本格化しましたが、2018年度はさらに具体的な動きとなって見えてくるはずです。

引退馬への関心が以前より集まるようになってきた今、2018年度は2013年に取得した「認定NPO」の更新もあり、責任ある認定NPO法人として社会的役割を果たすためにも、引き続き、透明な運営を心がけながら、馬と人のふれあい事業、フォスターペアレント事業、引退馬ネット事業の3つの事業を基幹事業として、積極的、かつ、決して浮足立つことなく、地道に活動を推進して参ります。

啓発事業につきましても、先に記しましたように、馬を引き取りたいという人が増えてきていることを受け、馬に寄り添い、馬の気持ちになって扱うことができる人を育成することを目的に、グランドワークを中心としたセミナーを行っていきたいと考えています。

また、組織運営について、働き方改革はNPO法人にも求められており、認定の更新手続きの中で、所轄庁より、職員の就業規則の整備などについての指導がありました。活動を持続可能なものとするため、職員の就労環境の整備にもご理解とご協力をいただけますよう、お願いいたします。